

# 旭前駅バリアフリー化へ 新年度予算で一步踏み出す

日本共産党も長年要求運動に取り組んだ、旭前駅のバリアフリー化について、来年度予算に少し動きがあります。

担当課の説明では、旭前駅利用者数が2012年に5000人を超えたことを受け、駅をバリアフリー化した際の図面を市でも作り、名鉄との交渉をさらに強めたなどの考えで、そのための調査費用を計上したということだ。

3年前(2011)年3月市議会で、尾張旭の交通問題を考える会が取り組んだ「旭前駅及び印場駅のバリアフリー化の早期実現を求める陳情書」が全会一致となり、その後、国もバリアフリー化の整

備対象を1日3000人以上の利用者数とするなど、住民要望への追い風もありましたが、旭前駅バリアフリー化に、市が具体的な予算計上したのは初めてです。

いつ頃バリアフリー化が図られるのかは、まだ気の早い話ですが、早期実現に向けて、これから取り組んでいきたいと思っています。

**保育園に入れません  
125人**

保育園への入園を望んでも入ることができない。そんな子どもたちの数が、今春には125人にものぼる見込みであることが川村議員の調べでわかりました。この125人という数字は、一般に「待

機児」と言われる数ではなく、入園申込みをしたものの、市から「入れません」との通知を受け取った数で、その多くは幼稚園に入園していると思われる。

保育園は求職中でも入園希望を出せませんが、求職中では、まず保育園に入れない、尾張旭市の保育園事情を物語る数です。

2月26日に開かれた、第2回 尾張旭市子ども子育て会議で示された資料によると、昨年4月1日

における3歳児の保育園入園者数が308人、幼稚園が436人。(同時期の3歳人口が790人)昨年4月の尾張旭市での待機児は10人。10月には54人でした。

**広がる ひとり親世帯の「みなし寡婦控除」  
尾張旭市でも  
適用を早く**

昨年、日本弁護士連合会が法律上の結婚を一度もしていないひとり親が税法上の寡婦控除の対象外とされているのは人権侵害であるとして、国や東京都に救済措置を求めていることを、川村議員が9

月議会で取り上げ、いわゆる未婚の母も同様に控除適用するよう求めた、「みなし寡婦控除」が全国的にも広がるを見せています。非婚のひとり親にも、

寡婦控除を行ったとみなして、保育料などを減額するこの制度は、県庁所在地の46市と5政令市の計51市を対象に調べた(赤旗日刊紙)ところ、4月から9市が実施予定。すでに実施している10市を含め、4月から19市での実施となります。

親の経済状況はそこにある子育ての問題でもあり、子供の貧困を少しでも解決していこうという立場に立てば、みなし寡婦控除はすぐに導入すべきです。対象者が限られていることから、予算が確保できないという言い分

3月議会が4日からはじまりました。4月からの消費増税が市政に与える影響など、左記の議会質問を準備しています。傍聴やインターネット中継で応援をお願いします。(川村)



## 3月議会 党議員団の質問項目 と 議会日程

### 川村つよし議員の質問

(11日(火) 9:30~)

- 消費増税が市財政に与える影響について
- 消費税軽減税率  
市は水道のゼロ税率を国に求めよ
- 法人市民税の超過課税について
- 国保税の減免制度充実を求める
- 保育施設での死亡事故を起こさないために
- 子どもの貧困対策法の対応状況について

### 議会日程

本会議初日 4日(火)  
本会議 代表・個人質問 7日(金)・10日(月)・11日(火)

福祉文教委員会 13日(木) …川村議員  
都市環境委員会 14日(金)  
総務委員会 17日(月)

本会議 最終日 25日(火)  
開始はいずれも 午前9:30~